

ふじ女 令和7年10月度特別作品

花火大会 ふじ女

花火大会も有料のご時世。旅先でたまたま、チケットを取ってみました。『鹿児島錦江湾サマーナイト大花火大会』残っていたのは、千円の自由席。『世界有数の活火山桜島と厳静かな錦江湾という世界に誇れる自然景観を背景に開催する九州最大級の花火大会』一万五千発。世界に誇れる最大「級」。いい感じですよ。一尺玉連発、二尺玉二発同時打ち上げがあります。二尺玉は、直径六十センチ、七十キロの花火玉、開くと直径五百メートル、七十万円也。大迫力でした。

花火見や駅に大量なる頭

花火見の進めぬ人の足踏みか

シャウトするウルトラソウル花火散る

ため息の大地の上に揚げ花火

話しては花火を待っている親子

向き不向きハート子ブタの花火かな

遠花火彼方に見る人に祈る

花火見やスマホ振り振りジ・エンド

扇風機流行りの帯の胸の上

抜け道に未だ出られぬ夜の酷暑

《作品鑑賞》

森口良樹

旅行先で出会った錦江湾の花火大会は、桜島を背景にして一万五千発とか、さぞかし見事な大会だったのだろうと思います。また、句から見物客の流れや、打ち上げられるたびの歓声や掛け声が聞こえるように受け取れました。近年、コロナ以降、各地の花火大会は縮小され、宮島や錦帯橋も同様に中止になったように思います。そのなかで、立派な花火を見学されたのはうらやましい限りです。

花火見や駅に大量なる頭

花火大会近くの駅の人混みを、プラットフォームから見下ろされているのでしょうか、多くの人が会場に向かって動く姿を、的確に捉えられていると思いました。

ため息の大地の上に揚げ花火

尺玉の打ち上げ花火に仕掛花火、場内アナウンスに観客の歓声と掛け声はいつまでも耳に残っているのでしょうか、花火の打ち上げの風向きによっては、火薬の煙や匂いが会場に立ち込めたのかもしれない。打ち上げられるたび、歓声は鳴りやまなかったことでしょう。

扇風機流行りの帯の胸の上

いくら海沿いの大会だとしても、近年の暑さに、旅先での長時間の花火見学は苦痛だったのではないかと思います。そこで、旅館で選んだ流行の帯は勿論、巷で流行の手持ちの扇風機も活躍したのでしょうか。旅浴衣と扇風機、大会の状態を的確に句に反映しておられると思いました。

抜け道に未だ出られぬ夜の酷暑

一読して大会が終了したこと、暑かったこと、人出のいかに多かったことかを思慮しました。駅周辺の混雑ぶりを上手くまとめられ、私も花火を見学したいと思わせてもらいました。

なぜかしら、韓国の駅周辺の人出が多くて起きた事故が思い浮かび、とにかく、事故無く鑑賞されてよかったです。